

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02061

研究課題名（和文）イギリス福祉国家政策と社会階層の形成と再生産からの社会的排除概念の再検討

研究課題名（英文）Rethinking of Social Exclusion from the Study in class structure in the UK

研究代表者

深井 英喜（Fukai, Hideki）

三重大学・人文学部・教授

研究者番号：10378276

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000 円

研究成果の概要（和文）：研究期間開始後すぐにCovid-19の影響を受けたため、残念ながら当初の予定していたイギリスでのヒアリング等は実施できず、文献資料による研究になってしまった。文献資料を整理する中で、イギリスの社会的排除問題を議論するには、次の2点が重要であることがわかった。第一に、社会的排除の要因の背後には、イギリス経済の脱工業化とグローバル化・金融化という社会経済構造の変化があること。第二に、こうした社会構造の変化が個人に影響を及ぼす上で、地域・コミュニティの機能の変化が大きな要素となっていると思われること。特に後者は、日本の研究動向の中でこれまであまり扱われてこなかった点であり、今後の研究課題としたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会的包摂政策をめぐることは、一方で個人の属性の改善を論じる議論があり、他方で産業・就業構造の変容に応じた市場管理・生活保護政策を論じる議論がある。この論点に本研究は、現在の社会構造の変容の中で「新たな労働者階級」と呼べるような人間集団が形成されているのではないかと、という仮説を立てて取り組んだ。イギリスでも“新しい階級”をテーマとする書籍が発表され、その中で社会構造の変容が地域コミュニティに影響を及ぼし、それがコミュニティ構成員の経済行動に影響していることが指摘されている。この点は、日本の研究では目にした記憶がなく、地域コミュニティと社会的排除の関係について、今後研究を深める必要性を感じた。

研究成果の概要（英文）：Unfortunately, due to the impact of Covid-19, I was unable to conduct interviews in the UK as originally planned, and the research ended up relying on documentary materials. While organizing the literature, I found that the following two points are important when discussing the problem of social exclusion in Britain. First, behind the social exclusion, there are changes in the social and economic structure of the British economy, such as deindustrialization, globalization, and financialization. Second, when these changes in social structure affect individuals, changes in the functioning of regions and communities appear to be a major factor. In particular, the latter point has not been much addressed in Japanese research trends, and I would like to make it a future research topic.

研究分野：経済学

キーワード：福祉国家 社会的排除

1．研究開始当初の背景

対社会的排除を目指す社会的包摂政策は、現在の福祉国家政策のキー概念である。しかし、社会的包摂政策には、社会科学の視点からは思想的に対立する2面性をもつ。すなわち、一方で、社会的包摂政策として、employability や社会参加といった個人の属性や行動に働きかけることを主とする方向性が論じられている。他方で、社会的排除問題の背後に現在資本主義の社会構造的変容を見て、現在の資本蓄積様式に応じた市場規制や生活保護政策の必要性が論じられている。

この論点について、これまでの研究の多くは、社会的に排除されている生活困窮者のシティズンシップ（社会の構成員としての尊厳や地位や資格）の欠如という点から、社会的に解決を図るべき社会問題と論じてきた。このシティズンシップに依拠する議論は、社会的排除にある人々の選択における実質的自立性を強調することで、社会的排除が社会政策の対象である社会問題と位置付けることに成功してきたと言える。しかし、この議論にもとづくと、個人の選択の実質的自立性の保障が社会的包摂政策の目標となるため、そのための環境を整備して個人が直面している属性の改善が、議論の論点の中心になる傾向がある。

社会的排除問題を現代資本主義の社会構造に起因する社会問題として、所得分配や市場規制等の社会経済構造についての論点に議論を拡張するためには、現在資本主義の資本蓄積構造のなかに社会的排除問題を位置付けることが必要である。本研究は、社会的排除を社会経済構造的な問題に位置付けることを目指し、その観点から社会的排除を再検討することを目指した。

2．研究の目的

上記の問題関心にもとづき本研究は、社会経済構造の変容によって「新たな労働者階級」と呼べるような、現在のイギリスの資本蓄積構造のなかで、社会的排除などの生活困窮リスクにさらされる人間集団が、社会構造的に形成されていることを論証することを試みた。

社会的排除および社会的包摂の概念についての議論の多くは、社会の中心領域の“内”と、社会の周辺部に追いやられ排除された“外”という水平的な移動を問題にする。社会的包摂政策として個人の属性や行動への働きかけを主とする方向性の議論は、この“内”と“外”が社会構造的な要素ではなく、いわば個人の機会の問題として見ている。つまりこの議論において“外”とは、社会の主流である“内”の機会に、何らかの特徴や属性のためにアクセスすることができない状態と理解される。したがって、この考え方にもとづくと、“内”と“外”は社会構造において断絶していると捉えられている。その結果、“内”と“外”の社会構造的な関係性の問題は、論点としてかすんでしまう傾向にある。しかし、この“外”とされている社会的地位が、現在の資本蓄積様式において必要とされる社会階級であるとするならば、社会的排除は社会構造的な問題と論じることができるだろう。

3．研究の方法

本研究が始まってすぐにCovid-19の影響下に入ったため、本研究は当初の研究方法を遂行できず見直しを迫られた。

当初は、主に文献調査・統計分析によって、イギリスの資本蓄積構造の変化について、先行研究を参照して明らかにするとともに、イギリスにおいて社会的排除にあるとされる人々の特徴の整理をおこない、その上で現地のヒアリングによって、社会的排除にあるとされる人々の職業的アイデンティティや階級的アイデンティティを探ることを計画していた。

アメリカのトランプ政権やイギリスのEU離脱の動向のように、先進国において排外主義や右傾化した意見が政治的な支持を集めている。このような世論が政治的に力を得る背景には、現代の資本主義社会構造においてそうしたアイデンティティを形成する要因があると思われる。そうしたアイデンティティが形成される社会の構造的な特徴について検討することを計画していた。

しかし、Covid-19による規制によって、本研究が計画していたヒアリング調査の部分を放棄せざるを得なかった。ただ幸いに、イギリスにおける「新たな階級」の存在をテーマとした社会学的な調査研究が発表されたため、これらに依拠しながら研究を進めた。しかし、多くはイギリスにおいて社会的排除にあるとされる人々の生活様式を描写するルポタージュ的な内容であったため、本研究の上記目的にアプローチするには限定的であった。

4．研究成果

現代のイギリスにおいて社会的排除にあるとされる人々の生活様式を描写する先行研究は、上記のように本研究の目的には限定的であったが、新たな研究テーマの示唆を与えてくれた点で成果があった。

これらの先行研究のいくつかは、社会的排除にあるとされる人々が暮らす地域およびコミュニティの変容と特性に着目していた。既存の福祉国家政策は、一定の地域コミュニティの互助機能を前提にしているが、グローバル化や脱工業化といった社会経済構造の変容が、地域コミュニティのあり方を変化させ、その互助機能にも影響を与えているという指摘である。そして、そうした地域コミュニティの変化が、コミュニティの構成員の社会生活の行動変容を生み出していることが指摘されていた。

こうした先行研究から、本研究の問題関心において、社会経済構造と個人の職業的・階級的アイデンティティとの関係の間に、現在資本主義の構造変化の影響を受けた地域コミュニティという要素を入れることで、社会経済構造のなかで個人が置かれている位置を、より社会構造的に捉えることが可能になるのではないか、という示唆が得られた。

日本の研究においても、脱工業化やグローバル化そして経済の金融化といった社会経済構造の変化が、国民国家レベルの労働市場等に与える影響については多くの議論がある。しかし、個人の生活空間である地域コミュニティに対してこれらが及ぼした影響については、まだ実証的に探究すべき点が残されているものと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 深井 英喜
2. 発表標題 地域の高齢化が住民の互助に及ぼす影響についての考察
3. 学会等名 社会政策学会東海部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 深井 英喜
2. 発表標題 地域の高齢化が住民の互助に及ぼす影響についての考察
3. 学会等名 社会政策学会 第143回春季大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------